

連合国による 日本語諜報員の養成

立教大学
武田珂代子

概要

- (短い) 自己紹介
- 現在の研究プロジェクト
- 米・英・加・豪軍による日本語諜報員養成の概観
- 英国の事例
- まとめと今後の研究

自己紹介

- 立教大学異文化コミュニケーション学部
(2011年9月～)
- 通訳（翻訳）研究（誰がどのように通訳
(翻訳) 者になるのか)
 - 通訳教育
 - 通訳職の社会的・文化的側面
 - 通訳の歴史（特に、戦争・占領時）

諜報に関する背景

- Monterey Institute of International Studies (現・Middlebury Institute of International Studies at Monterey; MIIS) モントレー国際大学
- Defense Language Institute 米軍語学学校

現在の研究プロジェクト

「戦争と言語」

- BC級戦犯裁判の事例に基づく戦時言語政策および戦争犯罪と通訳に関するマクロ的研究

—戦犯としての通訳者

—戦時通訳者（諜報要員）の動員と訓練

—戦時言語政策、植民地言語政策

さまざまな呼び名

- 通訳者 (interpreters)
- 尋問者 (interrogators)
- 翻訳者 (translators)
- 軍事諜報員 (military intelligence service)
- 暗号解読員 (code-breakers)
- 軍事言語担当官 (military linguists)

米・英・加・豪軍による 日本語諜報員の動員と養成

- 米国
- 英国
- カナダ
- 豪州

米軍の取り組み

- 1941年11月 SFで陸軍の日本語学校（主に日系二世）
- 1942年6月 ミネソタへ (MISLS) 6000+
（収容所からも）
- 1941年10月 海軍日本語学校（白人のみ）
- 戦場、諜報センターで翻訳、通訳、プロパガンダなど
- 占領期は日本で

(McNaughton 2006; 武田 2008/2017)

カナダ軍の取り組み

- 1943年 陸軍日本語学校（S-20、バンクーバー、日系人排除）
 - MISLSに16名派遣
 - 1944年～ 英・豪軍から二世動員を促す強い圧力
 - 1945年 二世動員、陸軍日本語学校（西バンクーバー）→ 英軍で活動
 - MISLSの支援、助言
- (Adachi 1976; Ito 1984; McNaughton 2006)

豪軍の取り組み

- 1917-1938 士官学校で日本語クラス
 - E. Nave 英海軍で暗号解読
 - シドニー大学で少数が日本語
 - 1940年 陸軍検閲学校で日本語訓練（メルボルン、日本から亡命したロシア人の教師）
 - 1944年 空軍が日本語訓練（シドニー）
 - 現場では二世米人に依存（当初は抵抗）
- (Funch 2003; McNaughton 2006)

英軍の取り組み

- 開戦前
 - 大使館
 - 日本語通訳者リスト作成
 - SOAS（軍事目的ではない）
- 開戦後
 - SOAS
 - ベッドフォード
 - カナダ軍との交渉

開戦前：駐日英国大使館

- 少数の言語官を日本で養成
- 「日本語習得には日本滞在が最低3年は必要」
- 短期プログラムには懐疑的

(FO 371/22192/4200)

開戦前：日本語通訳者リスト

- 1939-1941 戦争準備のため、英国大使館が日本在住英国人の通訳者候補を調査し、リストを作成
- 日本語能力、動員準備、信用性を基準に3分類

(FO 371/22192/3926; FO 371/23571/2580)

開戦前：SOAS

- ロンドン大学東洋アフリカ学院（植民地行政官の養成）
- 1930年 日本語開始
- 日本文化・歴史
（卒業生は開戦時にシンガポールなどで捕虜に）

(Brown 2016; 大庭 1988)

開戦後：SOAS

- 1942年5月 開始
- 尋問官コース、翻訳者コース（のちに合体）
- 1年半の集中訓練
- ダルウッチ・ボーイズ
- 教員：英国在住日本人、カナダ人二世
- 戦犯裁判での言及

(WO235/834; Brown 2015; 大庭 1988)

開戦後：ベッドフォード

- SOASプログラムに対する懸念
- 1942年 暗号解読専門の日本語訓練
- ケンブリッジ大生などを対象
- 日本滞在経験のある軍人が教員
- ブレッチリーパーク、インドで暗号解読

(Stripp 1989)

開戦後：カナダへの圧力

- 日系カナダ人二世の価値に注目
- カナダ政府の抵抗
- 豪軍とともにカナダ政府へ圧力
- 1945年 日系人動員認めらえる→英軍へ
- 戦後、戦犯裁判などの通訳

(HS 1/186; HS 1/187; HS 1/188; HS 8/91;
Adachi 1976; Ito 1984)

まとめ

- 米軍の日系二世語学兵以外にも、英軍・カナダ軍・豪軍が日本語諜報員を動員、養成
- 開戦前から準備
- 短期集中訓練の効果は？
- 当初の抵抗あるも、最終的には日系二世に依存

今後の研究

- BC級戦犯裁判における通訳者
 - 戦犯として
(台湾人、日系米人・カナダ人を含む)
 - 証人として
(日本占領地の現地通訳者)
 - 通訳者として
(連合軍の日本語諜報員、現地人、日本からの派遣通訳者)

(武田 2017)

参考文献（一次資料、一部）

The National Archives, Kew (英国公文書館)

FO 371/22192/3926, Provision of Japanese interpreters in time of war, 1938.

FO 371/22192/4200, Study of Japanese language and language officers in Japan, 1938.

FO 371/23571/2580, Provision of Japanese interpreters in time of war, 1939.

HS 1/186 Applications for operations Sumatra; Canadian Japanese officers, 1944-1945.

HS 1/187 Canadian Japanese personnel, 1945.

HS 1/188 Canadian Japanese personnel, 1944-1946.

HS 8/91 Canadian Japanese recruits, 1945.

WO235/834 Defendants: Itsuki Toshio et al. 1945-1946.

参考文献（二次資料、一部）

- Adachi, K. (1976). *The Enemy that never was*. Toronto: McClelland & Stewart.
- Brown, I. (2016). *The School of Oriental and African Studies*. Cambridge University Press.
- Funch, C. (2005). *Linguists in Uniform*. Monash University.
- Ito, R. (1984). *We Went to War*. Stittsville: Canada's Wing.
- McNaughton, J. (2006). *Nisei Linguists*. US Army.
- 大庭定男 (1988). 『戦中ロンドン日本語学校』中央公論社.
- Stripp, A. (1989). *Codebreaker in the Far East*. Oxford University Press.
- 武田珂代子 (2008/2017). 『東京裁判における通訳』みすず書房.
- 武田珂代子 (2017). 「戦争と言語」武田珂代子編著『翻訳通訳研究の新地平』(108-132). 晃洋書房.